

1. 河川特性

(1) 神崎川

神崎川本川は全区間にわたり河床勾配が水平から 1/6,000 程度と緩く、潮位の影響を受けやすい河川です。周辺は古くから開発が進み、市街地が形成されています。

鋼矢板護岸が設置され、都市の中の貴重なオープンスペースとして自転車道、遊歩道をはじめとする高水敷の整備が行われています。これらのオープンスペースについては、地域の自治体や周辺の企業体の協力を得ながら維持管理（清掃など）がされています。



① 神崎川 西淀川区中島  
城島橋下流



② 神崎川 西淀川区御幣島  
神崎大橋上流



③ 神崎川 豊中市三国  
天竺川合流点



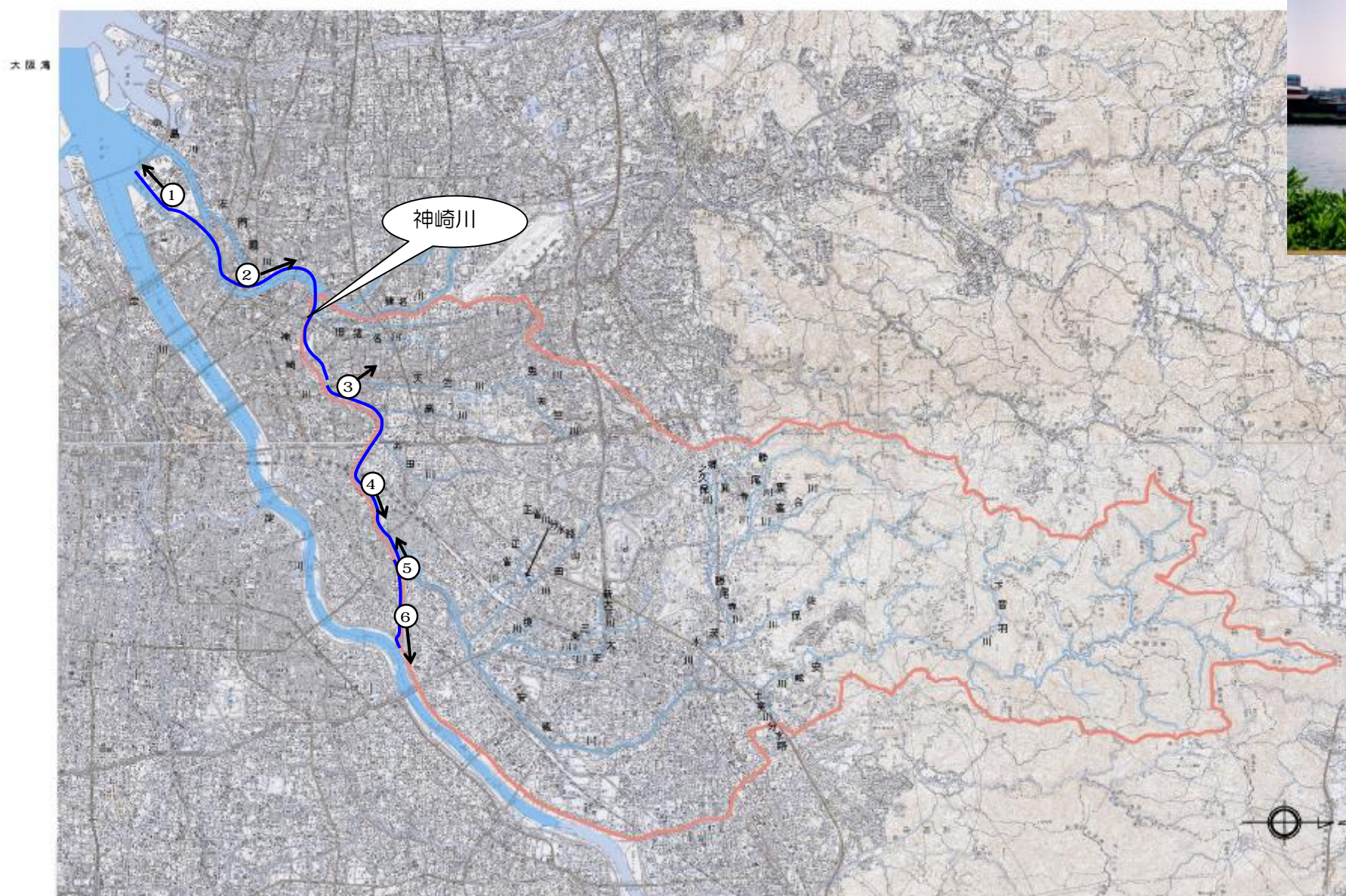
④ 神崎川 東淀川区西淡路  
新大吹橋下流



⑤ 神崎川 東淀川区相川  
阪急京都線下流



⑥ 神崎川 東淀川区南江口  
江口橋上流





(2) 安威川 (神崎川合流点～茨木川合流点付近)

安威川下流(神崎川合流点から安威川新橋付近)では川幅が100m以上と広く、高水敷を有する複断面の河川がほぼ直線上に流れています。高水敷の一部は自転車道として活用されています。

大正川との合流部付近までは感潮域となるため川幅いっぱい水面が見られます。河床勾配は1/1,500～1/2,000と非常に緩く、水の流れはほとんどありません。大正川合流部より上流の両岸には砂州が形成され、ツルヨシ等の生育が見られます。

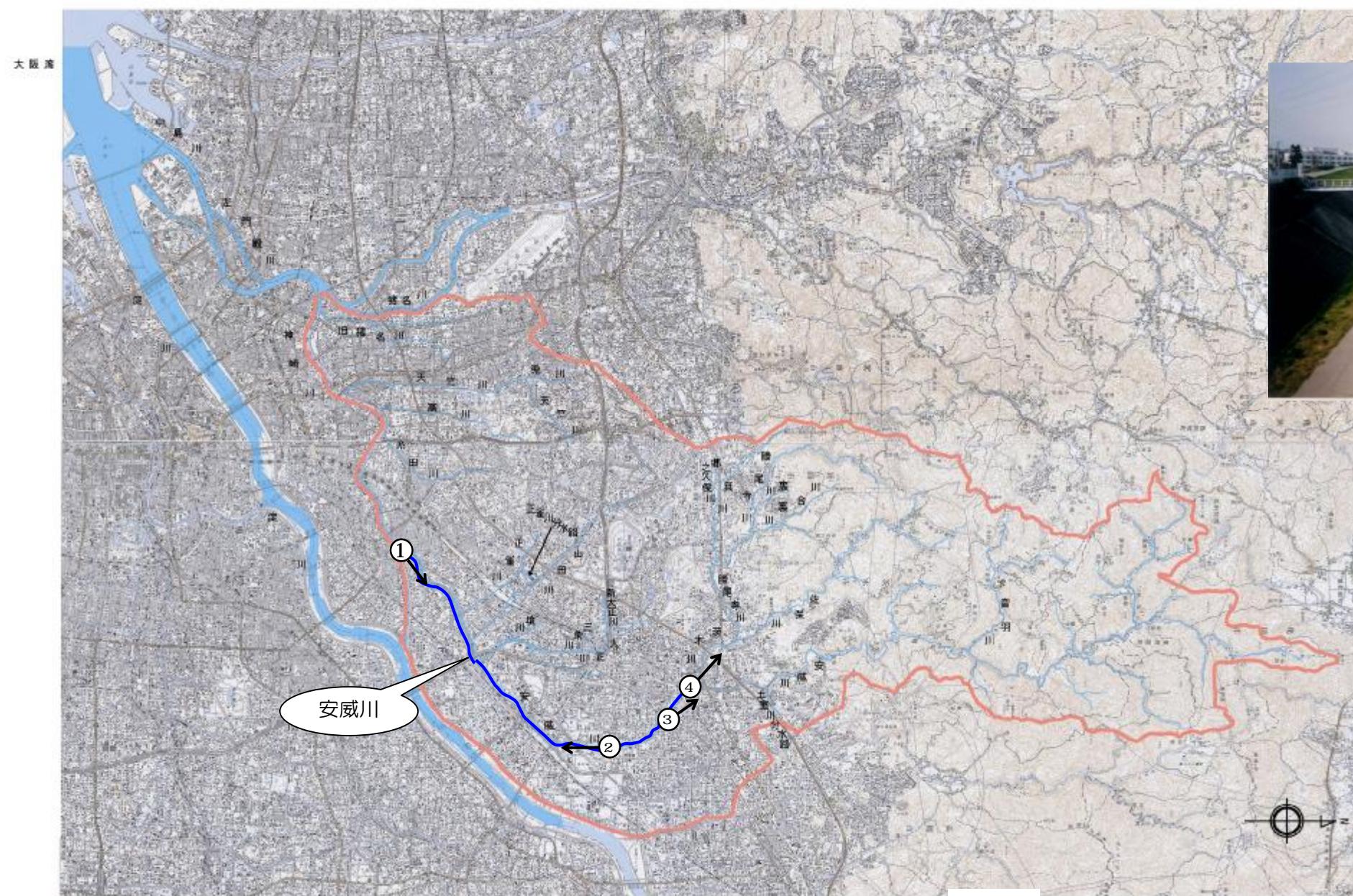
安威川中下流(安威川新橋付近～茨木川合流点付近)では川幅は70～80m程度となっています。高水敷を有する複断面であり、緩やかに蛇行しながら流れています。高水敷は、広場や遊歩道等として整備されているほか、<sup>きくらつみ</sup>桜堤の整備がすすめられており、地域の人々の憩いの場となっています。河川の蛇行部には砂州が形成されています。河床勾配は1/500～1/900程度で緩やかに流れています。周辺には市街地が形成されています。



① 神崎川・安威川 東淀川区相川  
高浜橋下流



② 安威川 茨木市新堂  
山科橋下流



③ 安威川 茨木市床  
千歳橋上流点



④ 安威川 茨木市三咲町  
茨木川合流



安威川 (茨木川合流点上流)

安威川中上流（茨木川合流点付近～長ヶ橋）では川幅は 50m程度となります。<sup>はむろがわ</sup>土室川分水路合流部までは複断面であり、高水敷には遊歩道の整備が施されています。河床勾配は 1/300 程度となっています。周辺には農地が見られるようになります。

安威川上流（長ヶ橋より上流）では農地や樹林の間を蛇行しながら流下しています。川幅は 20～30m程度と狭くなっています。河床材料は、砂から砂礫や礫に変わり、上流部では岩盤も見られます。河床勾配も 1/100 以下と急になります。山付き部は河畔林が水面まで迫る溪流の様相を呈します。瀬・淵の連続する多様な河川形態となっています。



② 安威川 茨木市桑原  
桑原橋下流



③ 安威川 茨木市車作  
登龍橋下流



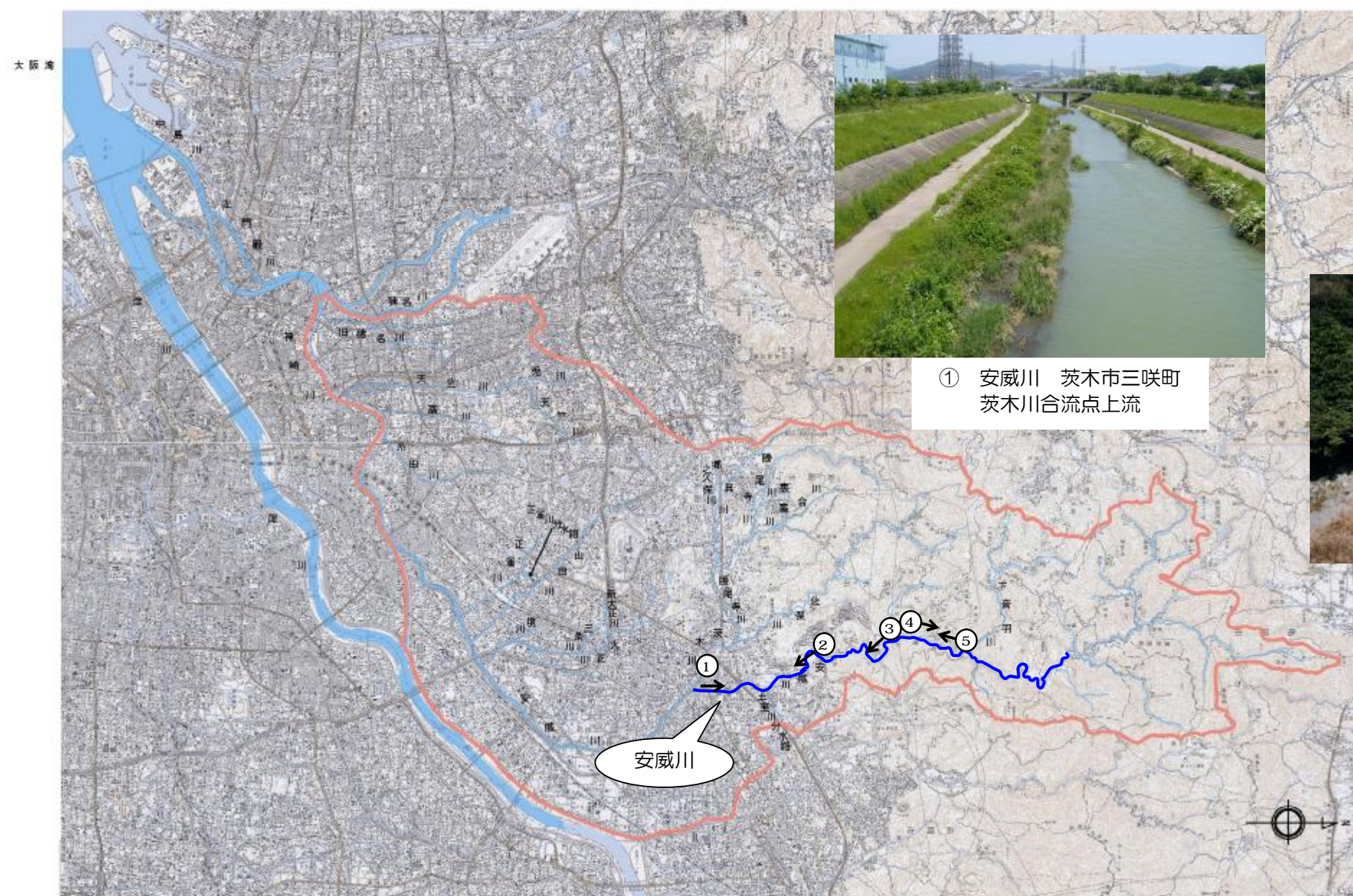
① 安威川 茨木市三咲町  
茨木川合流点上流



④ 安威川 茨木市車作  
高橋上流



⑤ 安威川 茨木市車作  
車作大橋下流



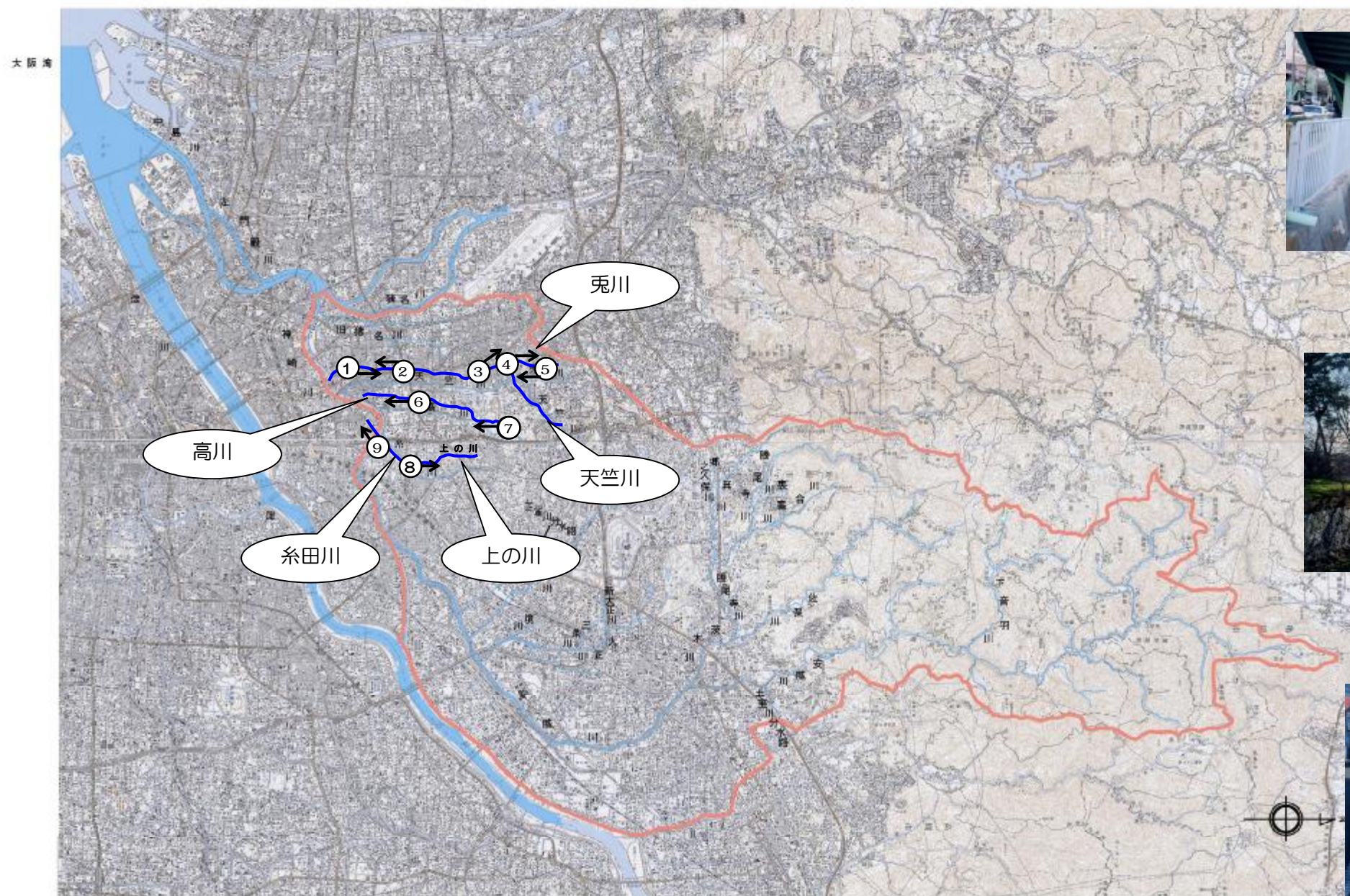


(3) 天竺川・高川・糸田川（神崎川支川）

各河川ともコンクリート護岸の勾配が急で、水辺に近づきにくくなっています。神崎川合流点付近は河床勾配も緩く、一部は天井川となっている上、河道周辺は住宅が密集しているため、災害時には甚大な被害が予想される重要河川です。

高川は<sup>ほつり</sup>服部緑地より下流側で落差工直下の淵、景観に配慮したコンクリートの法面、河道へのアクセスのためのスロープなど、利用に配慮した整備がされています。

糸田川の中上流部では、川沿いに桜並木があり、一部で<sup>きくらづみ</sup>桜堤整備が実施されています。



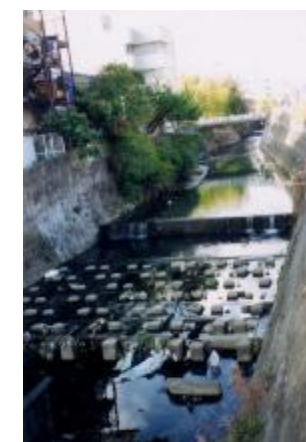
① 天竺川 豊中市豊南町  
日電橋付近（天竺川）



② 天竺川 豊中市浜  
天竺川橋下流



③ 天竺川 豊中市旭丘  
旭ヶ丘橋付近



④ 兎川 豊中市熊野町  
天竺川合流地点



⑤ 兎川 豊中市東豊中  
東豊中橋下流



⑥ 高川 吹田市江坂  
染の井公園付近



⑦ 高川 吹田市春日  
一級河川始点下流



⑧ 糸田川 吹田市泉町  
豊津駅付近



⑨ 糸田川 吹田市南吹田  
新糸田川橋付近



(4) 大正川・山田川・正雀川（安威川中下流支川）

大正川の下流部は、安威川と同様に高水敷を有する複断面となっており、高水敷は、遊歩道等として整備されています。加えて桜堤整備も進められており地域の人々の憩いの場となっています。

大正川の上流部や山田川などの支川は、コンクリート護岸の勾配が急で、水辺には近づきにくくなっています。

正雀川では、環境対策として安威川との合流点付近に錦鯉を放流するなどの試みがなされています。

各河川の周辺には市街地が形成されています。



① 山田川 摂津市正雀一の橋下流



② 山田川 摂津市千里丘下大神木橋上流



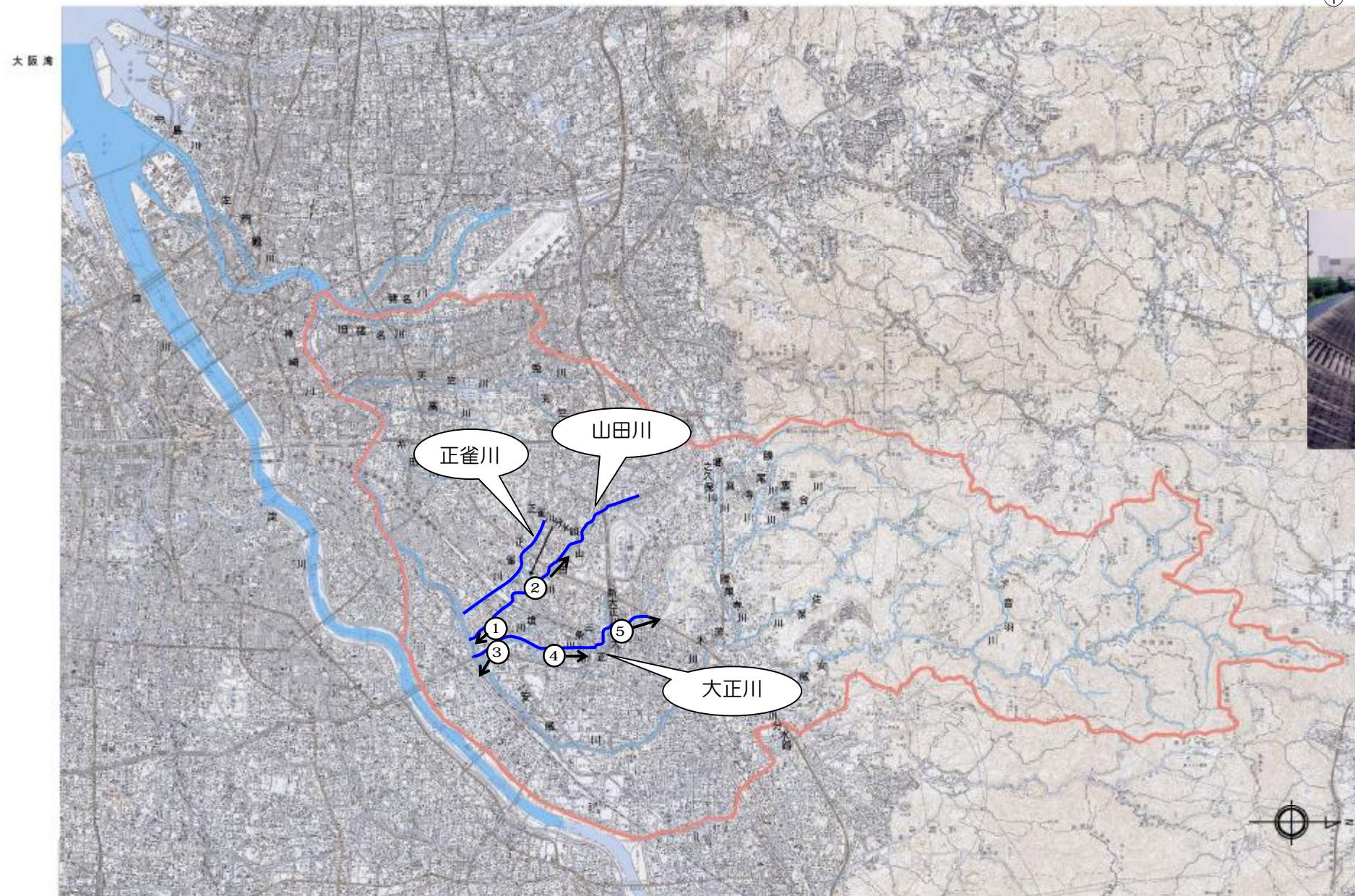
③ 大正川 摂津市三島鶴野中橋下流



④ 大正川 茨木市沢良宜大正川橋上流



⑤ 大正川 茨木市下穂積春日橋下流





(5) 茨木川・佐保川・<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川・<sup>しもおとわ</sup>川合裏川・下音羽川（安威川中上流支川）

茨木川は河幅が40～50m程度、河床勾配が1/350程度となっています。昭和42年の北摂豪雨を契機に本格的な河川整備が進められ、安威川合流点から<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川合流点までの区間が改修済みとなっています。河道はコンクリート護岸で整備されており、堤防には階段護岸、高水敷には遊歩道などが整備されています。人工的な護岸となっていますが、寄り州が発達してヨシ、クサヨシ等が生育しています。

河川の周辺には市街地が形成されています。

佐保川は、<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川合流点より上流の旧茨木川をさし、平成12年に名称変更がされました。上流は河床勾配が1/30ですが、集落があり古い護岸が築かれて河川になじんだ様相となっています。その下流は山地ですがところどころに田畑が開かれ、下流部では河床勾配が1/350とやや緩やかになり、住宅地が広がっています。佐保川の河川改修は、昭和42年から本格化し、昭和60年からは多自然川づくりが進められています。また、佐保川流域で国際文化公園都市が計画されています。

<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川上流は河床勾配が1/30、下流は1/50とやや緩やかになっていますが、河床勾配が急なため、砂防ダム、落差工、取水堰等多くの横断工作物が設置されています。上流部は山地河川で両側に山が迫り、短い区間で瀬と落差が連続します。下流部では<sup>みの</sup>箕川が合流しており、<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川下流部、<sup>みの</sup>箕川周辺は市街化が進み、河道はコンクリート護岸で整備されていますが、河川内には寄り州が形成され、瀬や河原のある多様な環境となっています。

川合裏川は河床勾配が1/150、河川幅10m程度の急流河川でしたが、国際文化公園都市として都市開発が進められており、平成16年度にまちづくりと一体となった河川整備が完了し、国際文化公園都市のまち開きが行われました。

<sup>しもおとわ</sup>下音羽川は上流部では農地や樹林の間を蛇行しながら流下し、下流部では山付き部となり河畔林が水面まで迫る溪流となっています。



① 川合裏川 箕面市粟生間谷  
川合裏川上流



② 勝尾寺川 茨木市宿久庄  
川合橋可動堰



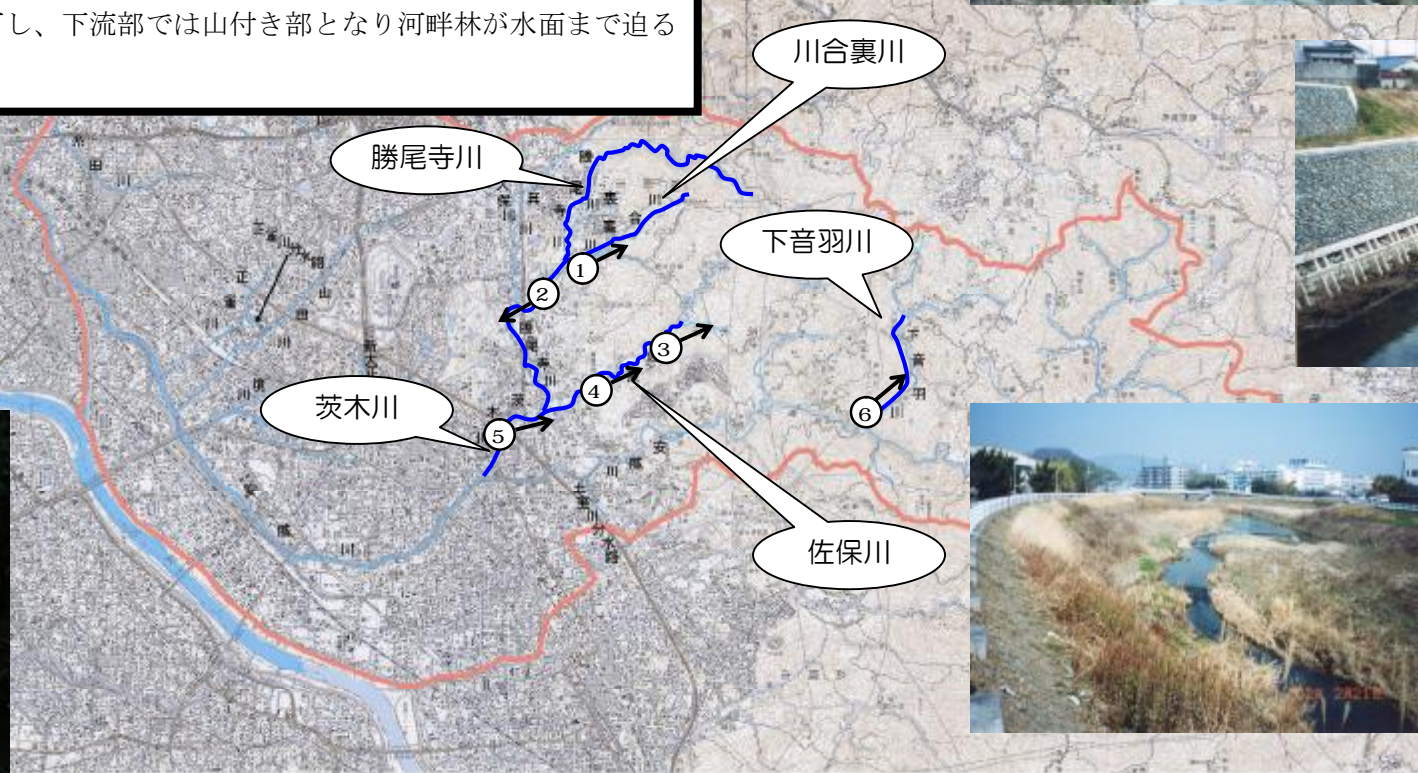
③ 佐保川 茨木市馬場  
馬場大橋付近



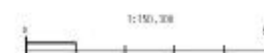
④ 佐保川 茨木市東福井  
福井橋下流



⑤ 茨木川 茨木市上野  
上野橋上流



⑥ 下音羽川 茨木市車作  
安威川合流点付近





## 第2節 河川整備の現状と課題

本節においては、治水・利水・環境の3つの観点からその現状と課題について述べた後、今後の河川整備についての総括的な課題について述べるものとします。

### 1. 治水の現状と課題

#### (1) 過去の洪水

神崎川ブロックでは、古くから氾濫や内水に悩まされてきました。

古くは宝龜3年(772年)、延暦3年(784年)に大洪水があり、この地区の治水対策として桓武天皇が淀川と神崎川を結んだとの記録が残っており、その後も近代まで、水路交通の要衝として栄える一方、たびたび氾濫に見舞われたきたとの記録が残されています。

明治期に入って抜本的な対策に取り組むようになるものの、洪水被害のたびに計画変更を余儀なくされるなど、たびたび洪水被害に見舞われています。

過去に起きた洪水のうち、記録に残っている中で最も被害が大きいのが北摂豪雨(昭和42年7月)で、茨木雨量観測所で総雨量が215.5mm、時間最大48mmもの降雨が記録されています。当時の資料によると死傷者61名、田畑冠水約1,500ha、家屋の全半壊41戸、床上・床下浸水約25,000戸、河川堤防決壊12箇所、橋梁被害13橋などとなっており、茨木市と摂津市の約1/3が浸水したといわれています。

発生年月日	西暦	災害原因	概要
宝龜3年	772		
延暦3年	784		
天正18年	1590		唐崎(高槻市)にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
慶長14年	1609		大塚(高槻市)にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
寛永5年	1628		唐崎にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
寛永10年	1633		三島江(高槻市)淀川堤防八十間決壊。神崎川流域に内水がたまる。
明暦元年	1655		大塚にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
嘉永元年 8月	1848		島本町の淀川堤防、別府村の安威川堤防などが決壊、島上・島下両郡が大洪水となる。
慶応2年 2月	1866		神崎川右岸の別府村の堤が切れて水が逆流、唐崎村から三島江村・柱本村・西面村・鳥養郷五ヶ村・一津屋村・新在家村など12ヶむらの人家、田畑が水につかる。安威川筋では、味舌村の堤が切れ、人家・田畑を水底にして濁流は村境の山田川に入り込み、岸部郷村々に溢れた。
明治元年 4月	1967		別府村(今の摂津市別府付近)の御国役堤、字外嶋が大破したのをはじめ、安威川・境川・茨木川・山田川などの諸川も決壊した。鳥飼組村々や一津屋・新在家・別府村など、神崎川に至る村々の数多くの家屋が流失・転倒。
明治9年 10月	1876		神崎川が氾濫して味生村大字別府堤防二十二間を決して、耕地三六四町歩余(約3.6平方km)を浸した。
明治15年 8月	1882	暴風・大雨	唐崎(高槻市)の淀川堤防と吹田村下新田の神崎川堤防が決壊し、耕地二〇〇町歩余(約2平方km)が水没した。
明治18年 6月	1885	大雨	【吹田市】6月上旬からの長雨で淀川が満水になりは停止、淀川右岸が一面に浸水。6月末、再び降雨による洪水が発生し被害増大。 【大阪市】橋はほとんど流失、中之島付近では軒下15cmまで浸水
明治29年 7月21日	1896	大雨	鳥飼村の淀川堤防、味生村大字別府の安威川堤防、味舌村大字味舌下および三宅村大字鶴野の安威川堤防が決壊、付近一帯が水没。 稗島・千船・歌島村(大阪市西淀川区)に被害
明治29年 9月8日	1896		【西淀川区】御幣島・歌島・加島・稗島など浸水 【東淀川区】三津谷・野中・堀・今里・小島・木川・堀上・加島・南宮原・宮原新家・東宮原・十八條・西・川口・南方・山口・淡路・濱・薬師堂・南方新家の各村が浸水、農作物も皆無に記す。
大正6年 9月30日~ 10月1日	1917	台風	【吹田市】10月1日淀川右岸一帯が浸水し、安威川、神崎川の破堤を誘発。淀川右岸堤防に沿って濁水が大阪湾に流出。
昭和7年 7月8日	1932		【茨木市】茨木川が田中で十数間にわたって堤防決壊。人家が多数浸水。田畑の被害は数百町歩。

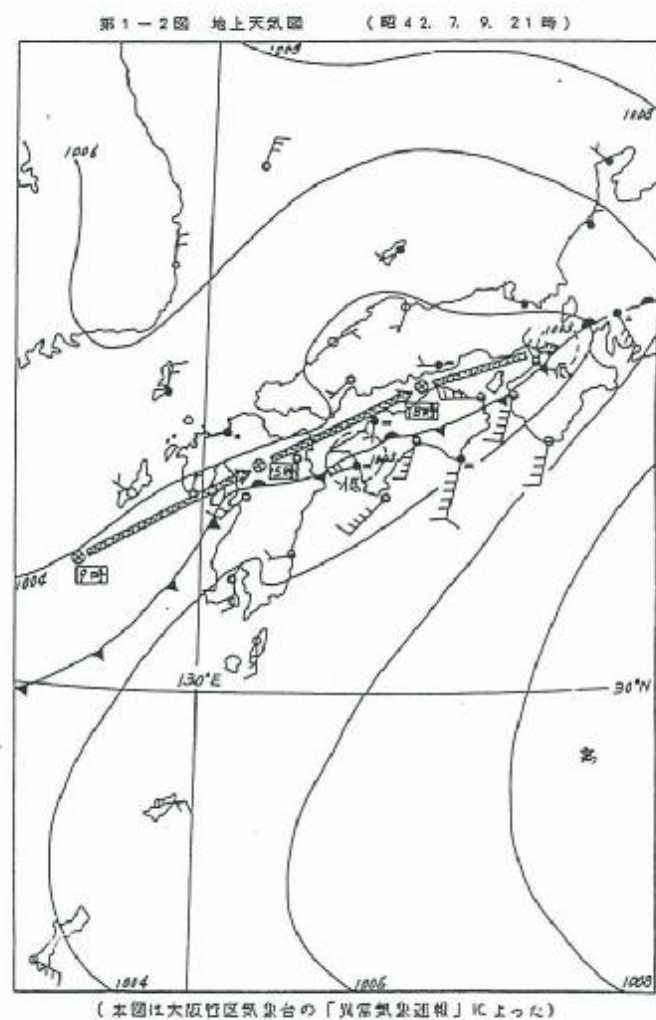
発生年月日	西暦	災害原因	概要
昭和9年 7月	1934		【茨木市】安威川筋では十日市・馬場・目垣・十一の堤、茨木川筋では田中・沢良直西および同東の堤防が決壊。被害は大。
昭和9年 9月21日	1934	室戸台風	【西淀川区】死者・行方不明者243人、重軽傷505人、流失・全半壊516戸 【東淀川区】死者33人、重軽傷者155人、流失・全半壊662戸、半流失10戸、床上浸水106戸 【茨木市】死者7人、負傷者136人 【摂津市】死者12人、負傷者48人、全半壊295戸
昭和10年 6月29日	1935		【茨木市】茨木川筋では中河原右岸120m、五日市右岸60m沢良直西・同東の両岸160m決壊。安威川筋では十日市右岸350m、西河原および戸伏で左右両岸各50m、二階堂上手で右岸100mが決壊。付近一帯に氾濫して大被害。 【摂津市】茨木川・安威川の堤防が各所で決壊 【箕面市】勝尾寺川などの河川が増水し、橋梁の流失・護岸堤防決壊。大被害発生。
昭和10年 8月10日	1935		【茨木市】護岸堤防の決壊が相続く。浸水家屋5000戸、流失ならびに半流失家屋350戸。 【摂津市】茨木川・安威川の堤防が各所で決壊。鳥飼村で約35haの免租申請。 【箕面市】集中豪雨により、被害がさらに増大。
昭和25年 9月3日	1950	シェーン台風	【西淀川区】死者・行方不明者58人、重軽傷者1,049人、流失・全半壊8,786戸、床上浸水6,130戸、床下浸水2,614戸 【東淀川区】死者4人、重傷者7人、全半壊1,288戸、床上浸水198戸、床下浸水1,642戸、非住家被害162戸 【茨木市】負傷者15人、全半壊233戸 【吹田市】負傷者6人、全半壊297戸 【摂津市】負傷者32人、全半壊294戸、非住家被害1,220戸
昭和26年 7月11日~ 15日	1951		【茨木市】西河原橋・永久橋が多火の被害。道路決壊12箇所、被害総額7600万円。 【摂津市】味舌町で浸水被害。
昭和28年 9月25日	1953	台風13号	【茨木市】死者1人、負傷者6人、全半壊81戸、床上浸水420戸、床下浸水1,263戸 【摂津市】床上浸水1,030戸、床下浸水561戸、非住家浸水457戸
昭和36年 9月16日	1961	第二室戸台風	【大阪市】死者6人、負傷者682人、流失・全半壊1,726戸、床上浸水51,500戸、床下浸水54,000戸 【茨木市】死者1人、負傷者9人、全半壊41戸
昭和40年 5月26日~27日	1965	台風6号	【摂津市】床上浸水22戸、床下浸水226戸
昭和42年 7月9日~13日	1967	梅雨前線	【茨木市】死者1人、負傷者9人、床上浸水1,892戸、床下浸水10,618戸 【吹田市】死者1人、負傷者50人、床上浸水2,695戸、床下浸水7,413戸 【摂津市】床上浸水933戸、床下浸水1,791戸、
昭和43年 7月2日	1968	梅雨前線	【茨木市】死者1人、床上浸水19戸、床下浸水1,764戸 【吹田市】床上浸水87戸、床下浸水1,168戸 【摂津市】床上浸水92戸、床下浸水881戸、非住家浸水2戸
昭和44年 6月25日	1969	梅雨前線	【茨木市】半壊1戸、床上浸水23戸、床下浸水646戸 【摂津市】床上浸水2戸、床下浸水61戸、非住家浸水1戸
昭和47年 9月16日	1972	台風20号	【茨木市】半壊2戸、一部破損9戸、床上浸水5戸、床下浸水211戸 【吹田市】一部破損3戸、床下浸水350戸 【摂津市】床上浸水3戸、床下浸水150戸
昭和54年 9月30日	1979	台風16号	【茨木市】床上浸水3戸、床下浸水313戸 【吹田市】半壊1戸、床上浸水9戸、床下浸水189戸 【摂津市】床下浸水28戸
昭和56年 10月9日	1981	大雨	【茨木市】床上浸水9戸、床下浸水105戸 【吹田市】床上浸水17戸、床下浸水250戸 【摂津市】床下浸水22戸
昭和58年 9月28日	1983	台風10号	【茨木市】床上浸水10戸、床下浸水139戸 【吹田市】床下浸水84戸 【摂津市】床上浸水66戸、床下浸水663戸
平成9年 8月7日	1997	大雨	【茨木市】床上浸水24戸、床下浸水43戸 【吹田市】床上浸水75戸、床下浸水168戸、非住家浸水209戸 【摂津市】床上浸水2戸、床下浸水116戸、非住家浸水23戸
平成11年 6月29日~30日	1999	梅雨前線	【茨木市】床上浸水2戸、床下浸水40戸 【摂津市】床上浸水102戸、床下浸水32戸、非住家浸水33戸 【吹田市】床下浸水28戸

出典：「西淀川区史」、「東淀川区史」、「茨木市史」、「吹田市史」、「摂津市史」、「箕面市史」等

○北摂豪雨（昭和42年7月）

梅雨前線が7日朝から太平洋南岸沿いに停滞していましたが、そこに2日に発生した台風7号の北上に伴い梅雨前線も北上し、近畿地方の中南部を主として各地で雷雨を伴う強い雨が降った。台風7号は8日には熱帯低気圧となり、前線も南下し活動も弱まったが、9日には熱帯低気圧は梅雨前線上に吸収され東北東に移動したため、梅雨前線の活動が活発になり、大阪中北部で集中豪雨が発生しました。

流域内の茨木市では日雨量215.5mm（9日）、時間雨量48.0mmが観測されました。



(本図は大阪府気象台の「異常気象速報」による)

地上天気図

資料：「昭和42年7月豪雨災害 概要」 大阪府

観測場所	7日	8日	9日	10日	11日	12日	計
箕面（气象台）	19.0	17.0	267.0	0	43.0	9.0	355.0
見山	20.0	16.5	256.0	0	75.5	10.0	378.0
茨木	18.5	14.5	215.5	0	56.0	10.0	314.5
池田	15.5	19.0	245.5	0	36.0	6.5	322.5
三国	8.0	44.0	200.0	0	35.0	13.0	300.0

日時	見山	茨木	池田	三国
7月9日 06				
07				
08				
09				
10	5.5	3.5	3.0	5.0
11	9.0	11.0	9.5	3.0
12	2.5	1.5	0.0	8.0
13	11.5	10.5	24.5	0.5
14	13.5	0.5	20.0	0.0
15	4.5	0.0	1.5	0.0
16	1.5	0.0	1.0	19.0
17	46.0	27.0	21.0	4.0
18	20.0	3.5	37.0	6.0
19	24.0	29.0	16.5	26.0
20	34.0	35.0	31.0	45.0
21	43.0	48.0	51.0	39.0
22	38.0	44.5	28.5	26.0
23	2.0	0.5	0.5	1.0
24	0.5	0.5	0.5	0.5
7月10日 01				
02				
03				
04				
05				

出典：「昭和42年7月豪雨災害 概要」 大阪府



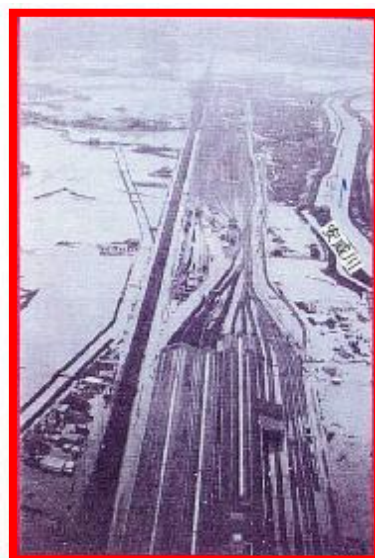
○北摂豪雨による被害状況



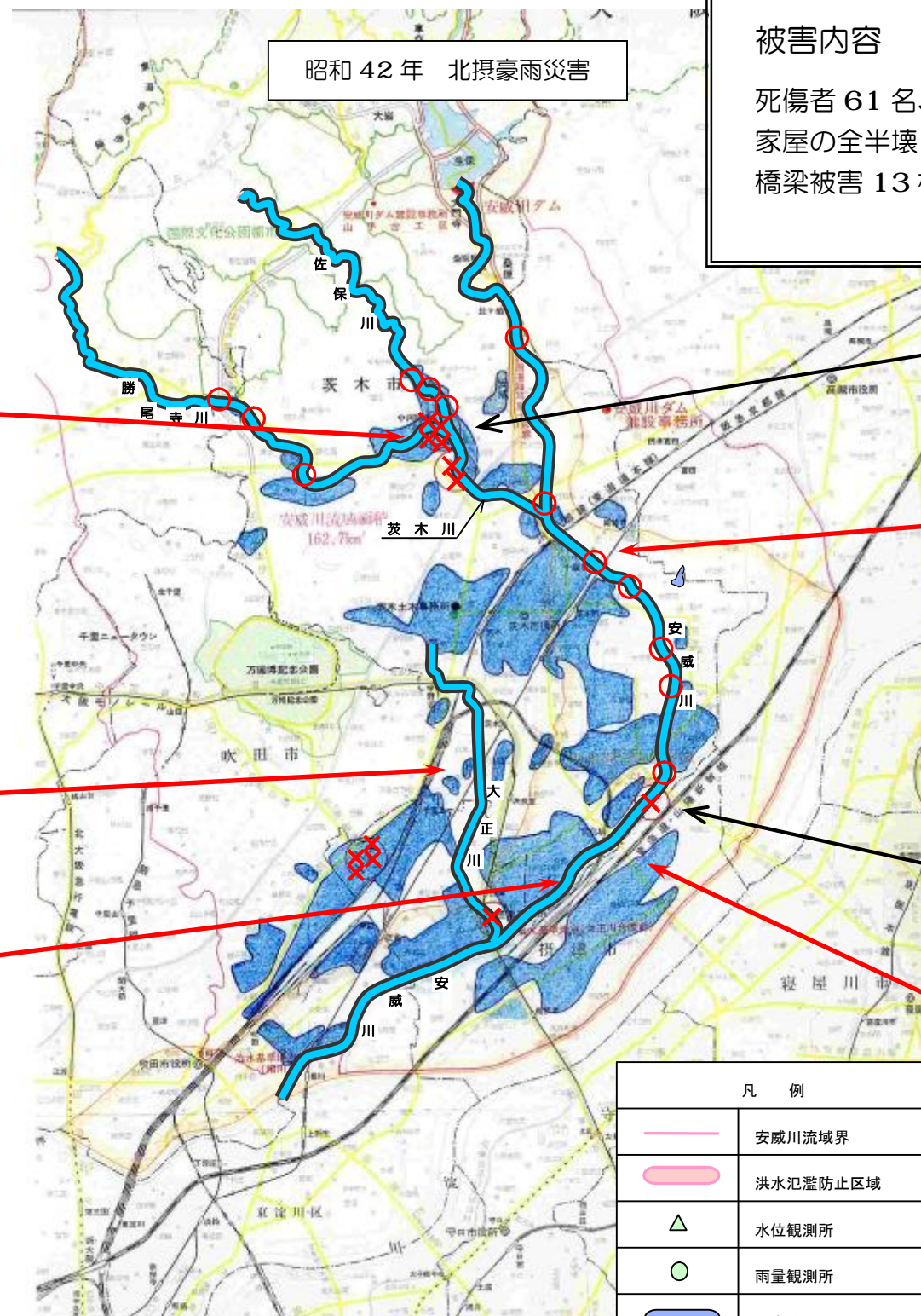
茨木川・勝尾寺川合流点付近（茨木市中河原町）



（茨木市沢良直）

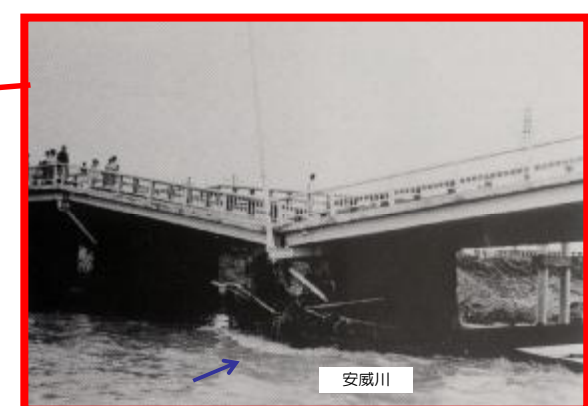


JR 鳥飼基地  
（摂津市安威川南町）



**被害内容**  
 死傷者 61 名、田畑冠水約 1,500ha  
 家屋の全半壊 41 戸、床上・床下浸水約 25,000 戸、河川堤防決壊 12 箇所、  
 橋梁被害 13 橋など「茨木・摂津市の約 1/3 が浸水」。（市広報より）

昭和 42 年 7 月 9 日 21 時 30 分 決壊  
 勝尾寺川左右岸（茨木市中河原地区）  
 【昭和 42 年 7 月豪雨災害：大阪府】



千歳橋の橋脚破損（茨木市戸伏町）

昭和 42 年 7 月 9 日 22 時 00 分 決壊  
 安威川左岸（茨木市野々宮地区）  
 【昭和 42 年 7 月豪雨災害：大阪府】



（摂津市鳥飼中）

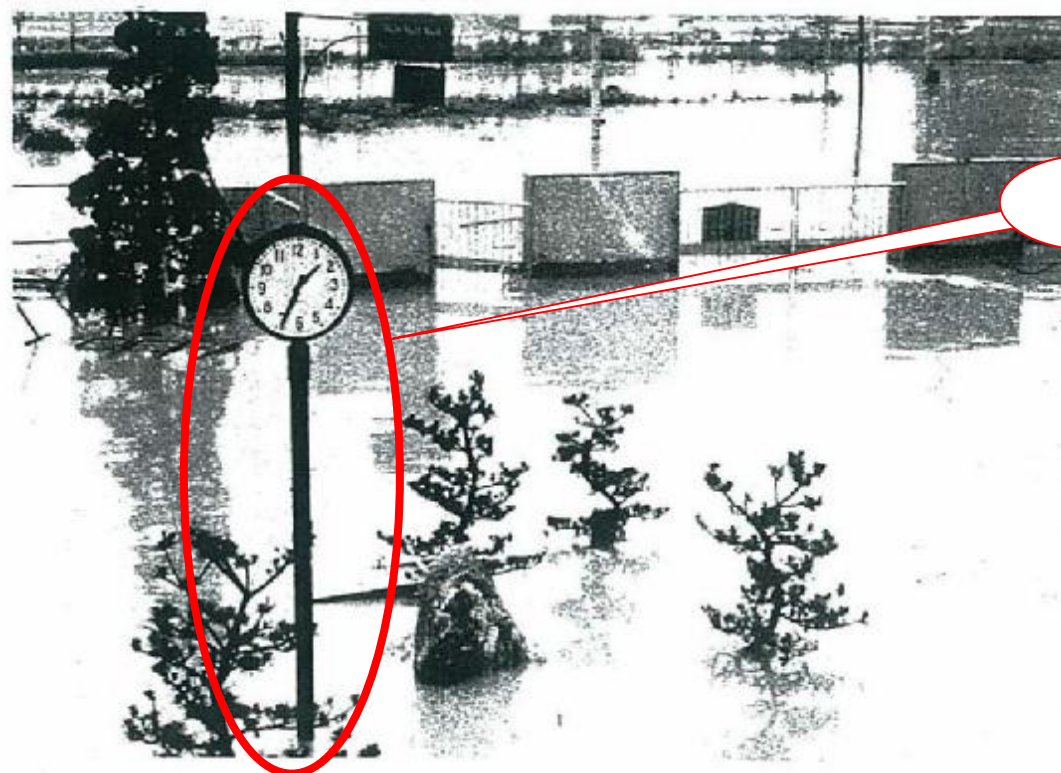
凡 例	
	安威川流域界
	洪水氾濫防止区域
	水位観測所
	雨量観測所
	災害時浸水区域
	堤防決壊箇所
	橋梁被害箇所



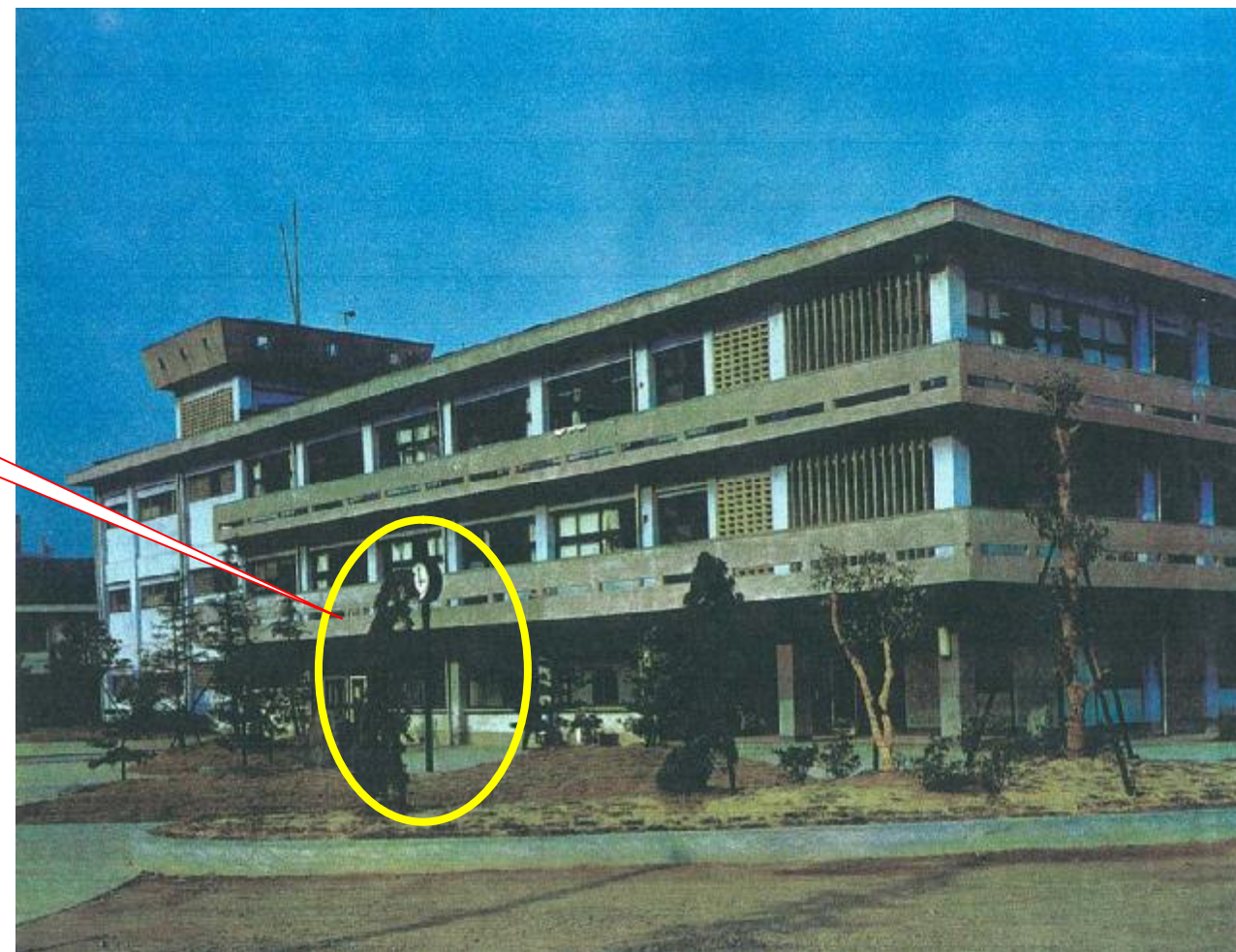
○北摂豪雨被害の再検討

昭和42年7月の北摂豪雨の状況を再検討するために、被災当時のニュース映像を入手して、被災箇所の特定を行ったり、当時の状況を知っている人にインタビューをしたりして、資料収集を行いました。

当時摂津市役所に隣接していた三島中学校の状況から、当時の被災状況を伺い知ることができます。



時計



当時の三島中学校

摂津市三島付近（出典：近畿水害写真集）  
 旧三島中学校正門前の浸水状況  
 （三島中学校跡地に現在の摂津市役所がある）

○内水被害の状況

近年では、平成11年の洪水被害の後、外水被害は出ていませんが、内水被害については、その後も大阪市東淀川区や摂津市など毎年のように発生しています。

内水被害の発生状況

年	地区	床下浸水世帯数	浸水事業所数	被害額(千円)
H12	豊中市、摂津市	4	21	58,271
H14	大阪市東淀川区	10	1	9,528
H15	大阪市東淀川区 摂津市	84	37	136,742
H16	大阪市東淀川区または淀川区（十八条処理区内）	0	1	1,899

出典：水害統計平成12～16年



## (2) 治水の現状

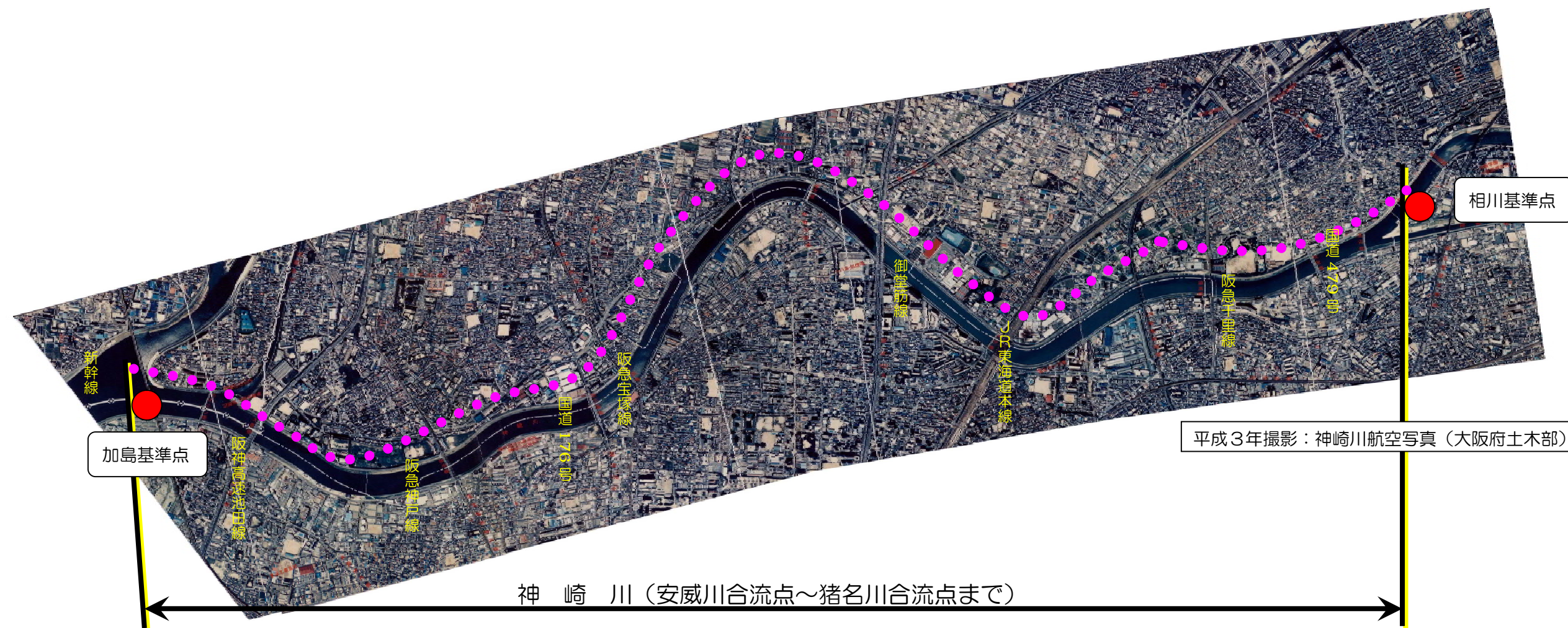
### ① 神崎川

昭和9年の室戸台風と昭和25年のジェーン台風、昭和36年の第2室戸台風による高潮の被害を受けたため、昭和期から高潮対策を中心に堤防の整備が進められました。

昭和36年から神崎川改修事業が開始され、昭和42年7月豪雨（北摂豪雨）を契機に神崎川基本計画（昭和42年11月）が策定され改修が進められてきました。さらに淀川水系工事実施基本計画（昭和46年12月）では、将来計画として加島基準点での計画高水流量を1,800m<sup>3</sup>/sとしています。

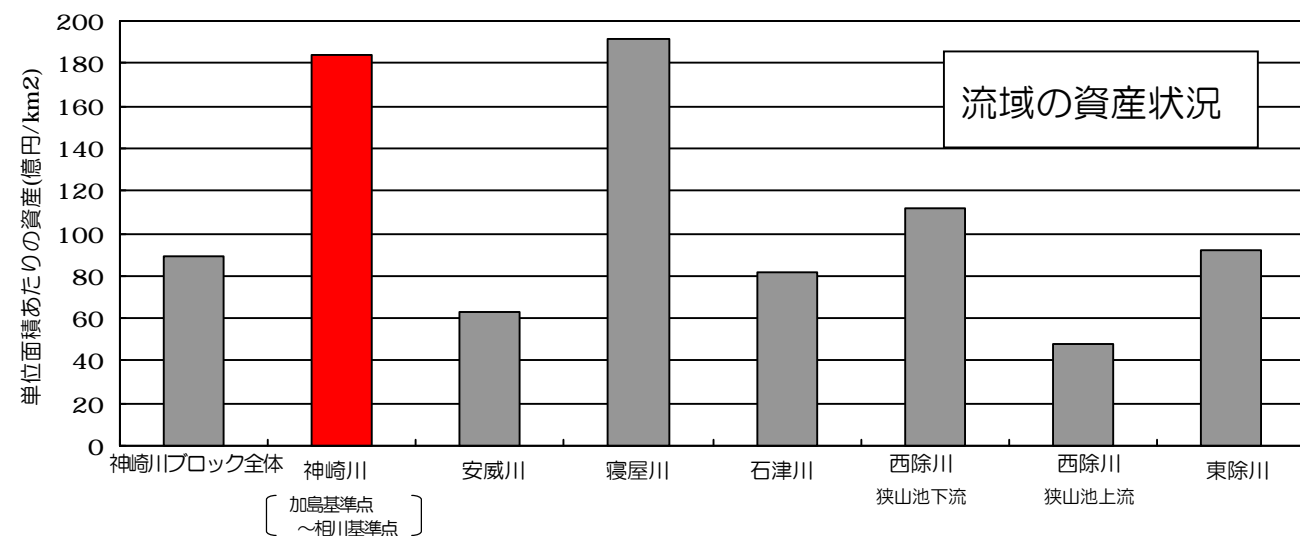
多数架けられている橋梁の橋脚への影響を考慮して神崎川全体計画（平成9年11月）が策定され、加島基準点での計画高水流量を1,300m<sup>3</sup>/sとする改修が行われています。現在は、概ね10年に一度発生する規模の降雨（日雨量157mm）による洪水を安全に流下させることができる護岸整備が完了しています。（以降「概ね1/10年の治水安全度が確保されています。」とする）

また、平成7年の阪神淡路大震災を契機に大阪府では「地震防災アクションプログラム」を策定し、震度4及び5で不安定な区間を平成29年までに完了させることを当面の目標として、計画的に耐震対策事業の推進を行っています。

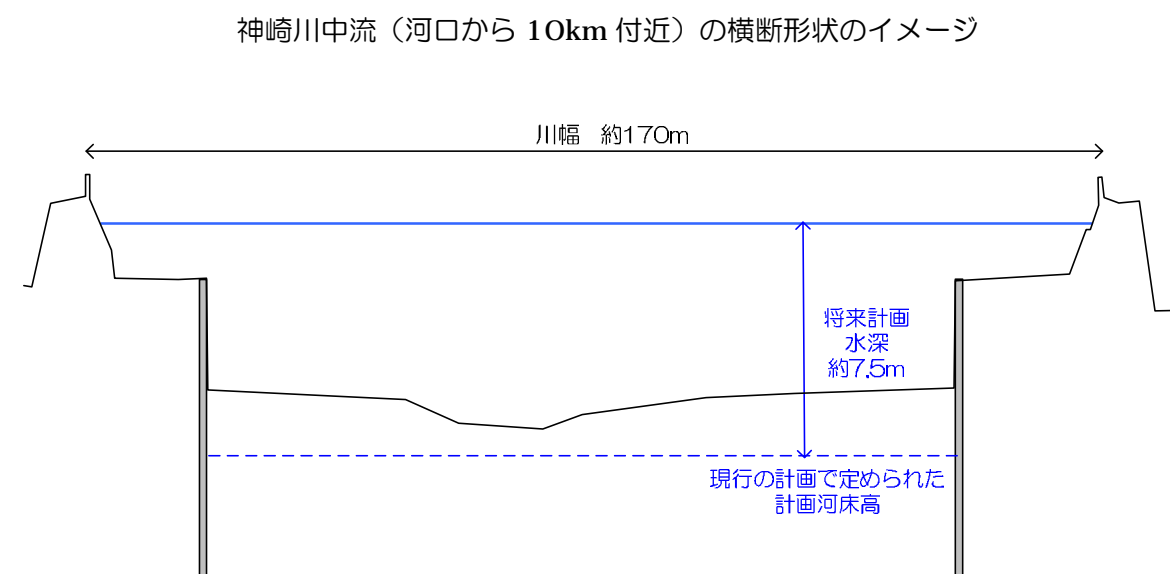
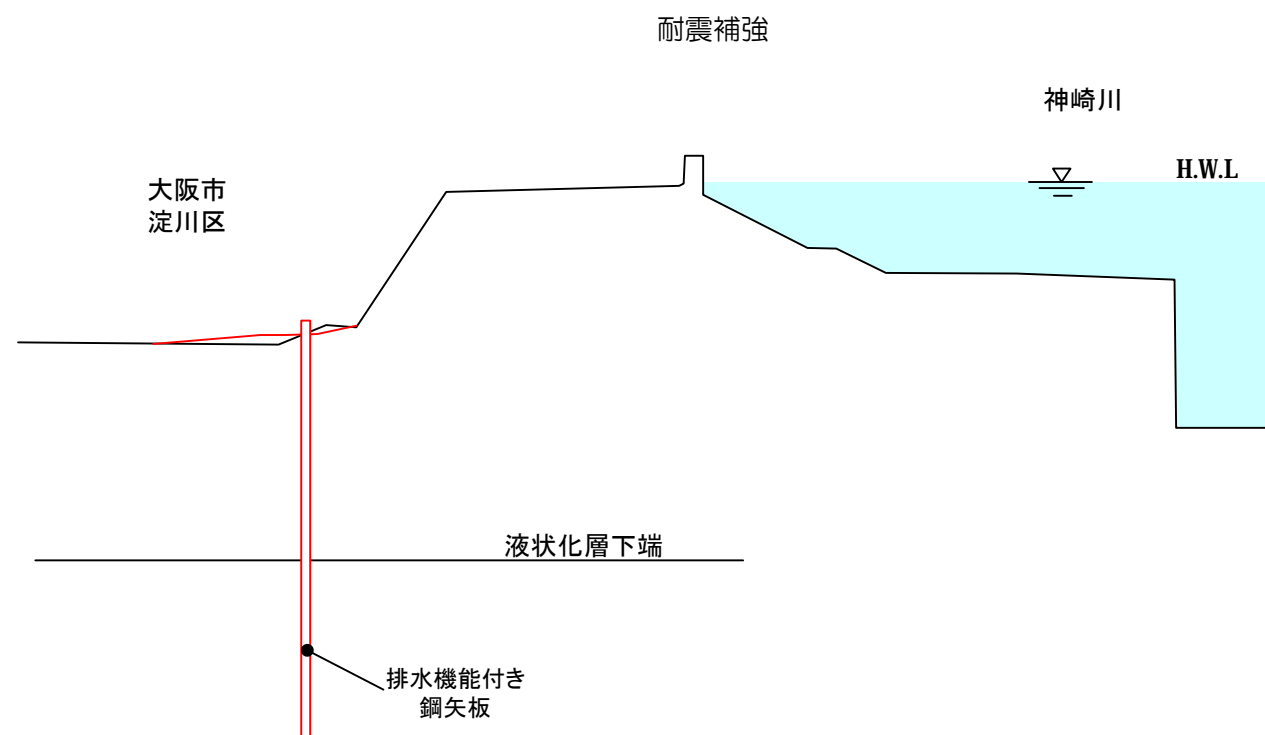




○神崎川流域の現状と整備標準横断面図



出典：(地域メッシュ統計)平成7年国勢調査、平成8年事業所統計(土地利用)国土数値情報 平成元年土地利用(単価)平成12年度



(注) 護岸については、現行計画の構造物として対応



② 安威川

昭和 10 年の水害を契機に改修工事（計画高水流量 418m<sup>3</sup>/s）に着手し、茨木川を茨木市田中町付近で安威川に合流するように付け替え、安威川の河道を複断面とし、拡幅、築堤、低水路掘削を実施しました。

その後、計画流量を上回る昭和 26 年 7 月および昭和 28 年 9 月の台風に伴う災害復旧工事により、低水路拡幅による河積の拡大を図りました。

昭和 36 年には計画高水流量を 690m<sup>3</sup>/s とした河川改修事業に着手し、下流より鶴野橋まで概成しました。高水敷を掘削・整備し、低水路を拡幅するとともに築堤して河積の拡大を図りました。

昭和 42 年 7 月の集中豪雨により堤防法面の崩壊、橋梁流失の他、茨木市野々宮<sup>ののみや</sup>で破堤したことを契機に、下流神崎川を含めた改修計画を再検討し、昭和 46 年に相川基準点での計画高水流量を 1,250m<sup>3</sup>/s とした治水計画をたてました。

その改修内容は河川の拡幅・切下げを可能な限り行い、洪水疎通に支障となる堰の撤去を積極的に行い、それでも不足する洪水流量を上流ダムにより調節するというものです。

昭和 42 年以降河川改修とダムの建設を内容とした治水事業を進めてきており、下流部の河川の改修については、昭和 61 年度末には茨木川合流点から下流の護岸工事が概ね完了し、阪急下安威川橋梁の架替及び河床切り下げ工事も平成 9 年に完了しています。現在は、概ね 1/10 年の治水安全度（日雨量 162mm）が確保されています。

ダム建設については、平成 24 年 3 月末時点で代替地事業（宅地・農地）、付替府道茨木亀岡線が完了していますが、一部の用地買収が残る状況となっています。



H24.4 現在



H24.4 現在



③ 天竺川・高川・糸田川・上の川（神崎川支川）

天竺川は昭和 21 年から天竺川橋基準地点での計画流量を  $80\text{m}^3/\text{s}$  とする改修が始まり、昭和 40 年に完成しました。昭和 42 年 7 月の洪水被害を受けて、計画流量を  $110\text{m}^3/\text{s}$  とする改修が昭和 42 年から昭和 45 年にかけて行われました。

八坂橋下流では計画流量を  $150\text{m}^3/\text{s}$  とした改修が行われていますが、砂畑橋、豊南橋、天竺川橋、旭ヶ丘橋付近において、局所的に概ね 1/10 年（※時間雨量  $58.4\text{mm}$ ）の治水安全度を下回る箇所があり、また八坂橋上流でも概ね 1/10 年の治水安全度を下回る区間があります。現在は概ね時間雨量  $40\text{mm}$  程度の対応となっています。

高川は昭和 34 年から昭和 39 年にかけて計画流量を  $60\text{m}^3/\text{s}$  とした改修が行われました。

新石橋下流では計画流量を  $85\text{m}^3/\text{s}$  とした改修が行われていますが、寺内橋付近、新石橋上流は、概ね 1/10 年（時間雨量  $57.5\text{mm}$ ）の治水安全度を下回る区間があり、現在は概ね時間雨量  $30\text{mm}$  程度の対応となっています。

その他、府道豊中吹田線を横過している水路橋の老朽化が激しく、その下流部の護岸の老朽化も問題となっています。

糸田川は昭和 58 年に全川的な河床掘削が行われ、昭和 62 年には下流から中流区間において河床掘削が行われました。護岸の一部は昭和 61 年にはすでに整備されており、その後昭和 63 年までに現在の護岸が整備されました。下流のパラペット堤は、昭和 63 年に整備されました。現在は、概ね 100 年に一度発生する規模の降雨（時間雨量  $84.0\text{mm}$ ）による洪水に対応できる整備が完了しています。

上の川は、千里ニュータウンの開発にあわせて護岸の整備がされています。沿川には、人家が張り付いており、これまでに何度も浸水被害が出ていますが、河道の拡幅による河川改修が困難な状態になっています。平成 15 年に上の川調節池が整備され、上の川橋基準地点での計画流量  $28\text{m}^3/\text{s}$  を目標とした改修が行われていますが、名神高速上流ではいくつかの箇所でも概ね 1/10 年（時間雨量  $57.5\text{mm}$ ）治水安全度を下回る区間があり、現在は概ね時間雨量  $50\text{mm}$  程度の対応となっています。

※ 神崎川、安威川では日雨量を用いているが、神崎川ブロックの流域面積が小さい支川においては時間雨量を基に治水計画を立てていることから、現状の治水安全度は時間雨量を用いています。



天竺川 豊中市浜 天竺川橋上流



糸田川 吹田市広芝町 広芝橋上流



兎川 豊中市熊野町 無名橋上流



上の川 吹田市山手町 豊津駅付近上流



高川 豊中市豊南町東 神崎川合流点付近



高川 吹田市江坂町 水路橋



④ 正雀川・山田川・大正川（安威川中下流支川）

正雀川、山田川は、万国博覧会に関連して改修が行われました。山田川では名神高速上流において平成9年に浸水被害が発生しています。これを契機としてパラペット護岸の嵩上げや橋梁部の止水高欄化などの対策を実施し、現在は、概ね1/10年（時間雨量57.5mm）の治水安全度を確保しています。正雀川も概ね1/10年（時間雨量57.5mm）の治水安全度を確保しています。

大正川は、昭和56年から平成元年にかけて河床掘削が行われました。護岸及び高水敷は平成2年までに整備されました。

現在は、安威川合流点から春日橋下流では概ね100年に一度発生する降雨（時間雨量84.0mm）による洪水に対応できる整備が完了していますが、春日橋上流では概ね1/10年（時間雨量57.5mm）の治水安全度を下回る区間があり、概ね時間雨量20mm程度の対応となっています。



山田川 摂津市東正雀 中道橋下流



大正川 摂津市香露園 味舌橋上流

⑤ 茨木川・佐保川・勝尾寺川・川合裏川（安威川中上流支川）

茨木川は流出土砂が多く、昔より大きな災害に見舞われてきました。本格的な改修に着手したのは、昭和7年の洪水と昭和10年の洪水を契機に茨木川を茨木市田中町付近で安威川に合流させ、安威川の断面を拡幅する工事が着手されました。昭和12年には茨木川の流路が変更され、昭和18年まで大規模な工事が進められました。

その後戦後の度重なる洪水においても安威川、茨木川は決壊を免れていたが、昭和42年7月に集中豪雨に見舞われ、安威川、勝尾寺川、箕面川が増水し、堤防の決壊、氾濫、橋の流出等の大被害が発生しました。この洪水とわが国初の万国博覧会を大阪で開催すること等の理由により、昭和42年より安威川筋の改修工事が本格的に実施されました。

その後、茨木川では流域の開発により洪水流量の増大が懸念され、これまでの計画を見直し、茨木川全体計画（平成7年12月）、川合裏川防災調節池全体計画（平成8年2月）が策定されました。

現在、川合裏川、勝尾寺川、茨木川は概ね100年に一度発生する規模の降雨（日雨量247.0mm）による洪水に対応できる整備が完了していますが、佐保川の福井上橋上流では、概ね1/10年（日雨量171.1mm）の治水安全度を下回る区間があり、概ね日雨量100mm程度の対応となっており、今後も引き続き国際文化公園都市の開発計画と整合した対応が必要となっています。



茨木川 茨木市上野町 上野橋上流



川合裏川 箕面市栗生間谷 裏川橋上流



勝尾寺川 茨木市清水 無名橋下流



佐保川 茨木市西福井 福井橋下流



⑥ 内水域

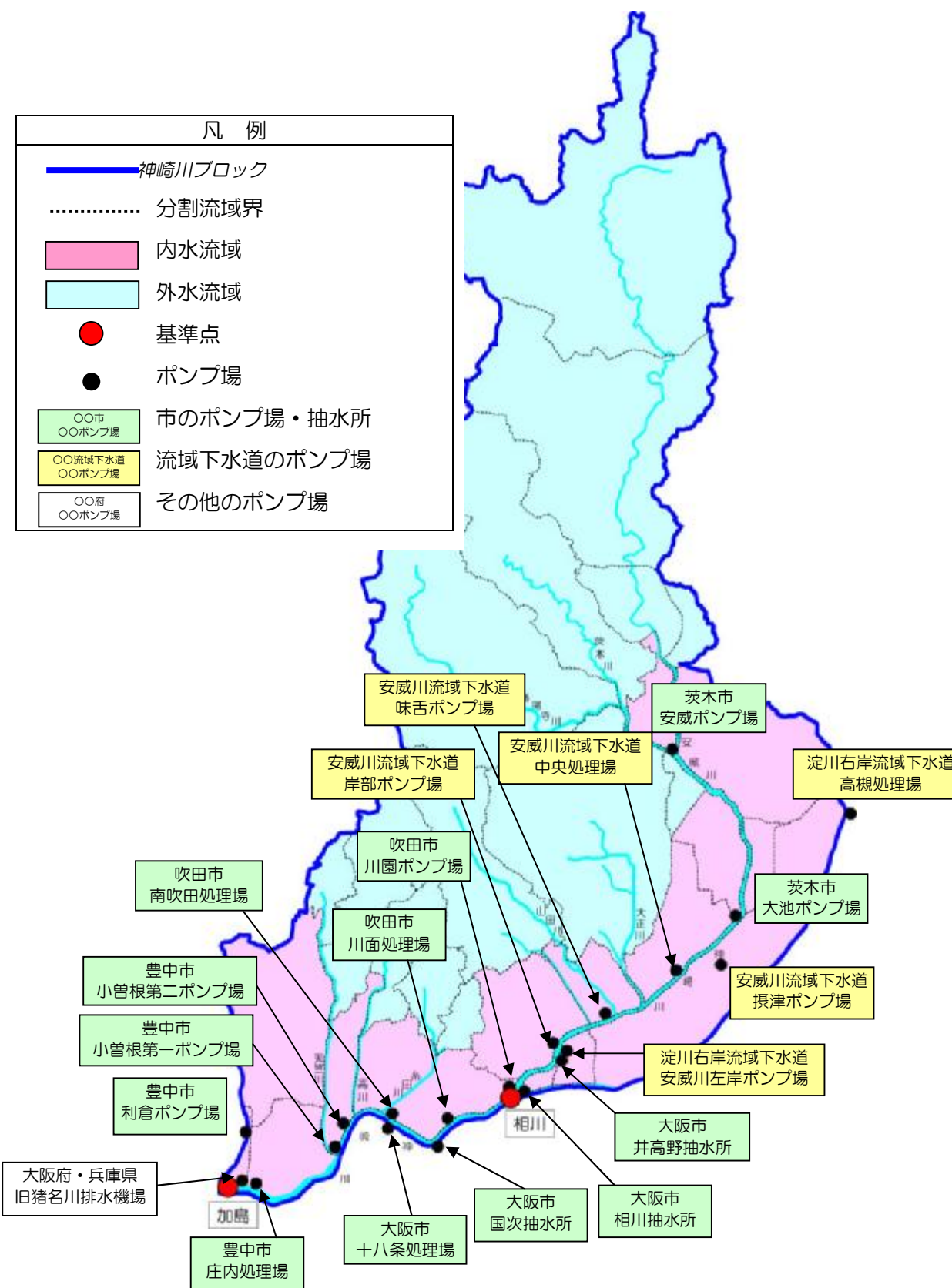
流域の下流部が内水域となっており、全体の約3割（65.3km<sup>2</sup>）を占めています。  
 現在、内水対策は各下水道管理者によって、概ね10年に一度程度の大雨に対して浸水被害を解消するよう整備が進められています。内水域の浸水対策は、河川管理者による河川の整備によって、雨水ポンプ場からの放流水を確実に流下し、下水道管理者が行う未整備地域の整備と協力して進めていく必要があります。

下水道ポンプ整備（神崎川ブロック内の雨水排除）

	全体計画整備能力 (m <sup>3</sup> /s)	平成22年度末整備済 (m <sup>3</sup> /s)	整備率 (%)
安威川流域下水道	230	224	97
大阪市	8	8	100
豊中市	114	110	96
吹田市	43	43	100
茨木市	58	50	86
合計	453	435	96

※大阪府は流域内の井高野排水区の整備率

高槻市は淀川右岸流域下水道、摂津市は安威川流域下水道のポンプによって雨水排除を行うため、市別のポンプが存在しない





(3) 治水の課題

神崎川ブロックは、200万人を超える人口と、国土軸である名神高速道路、東海道新幹線などがかかえた大阪府下でも重要な流域であり、堤防の決壊などの洪水被害は甚大なものとなります。また内水域での浸水被害も顕著になっていることから、特に治水安全度が1/10年に満たない箇所では早期に河道拡幅や河床掘削などの河川整備により治水安全度の向上をはかる必要があります。

しかしながら、市街化の進行した当ブロックでは、河道拡幅や河床掘削による対応が困難となってきた地域が増えてきています。

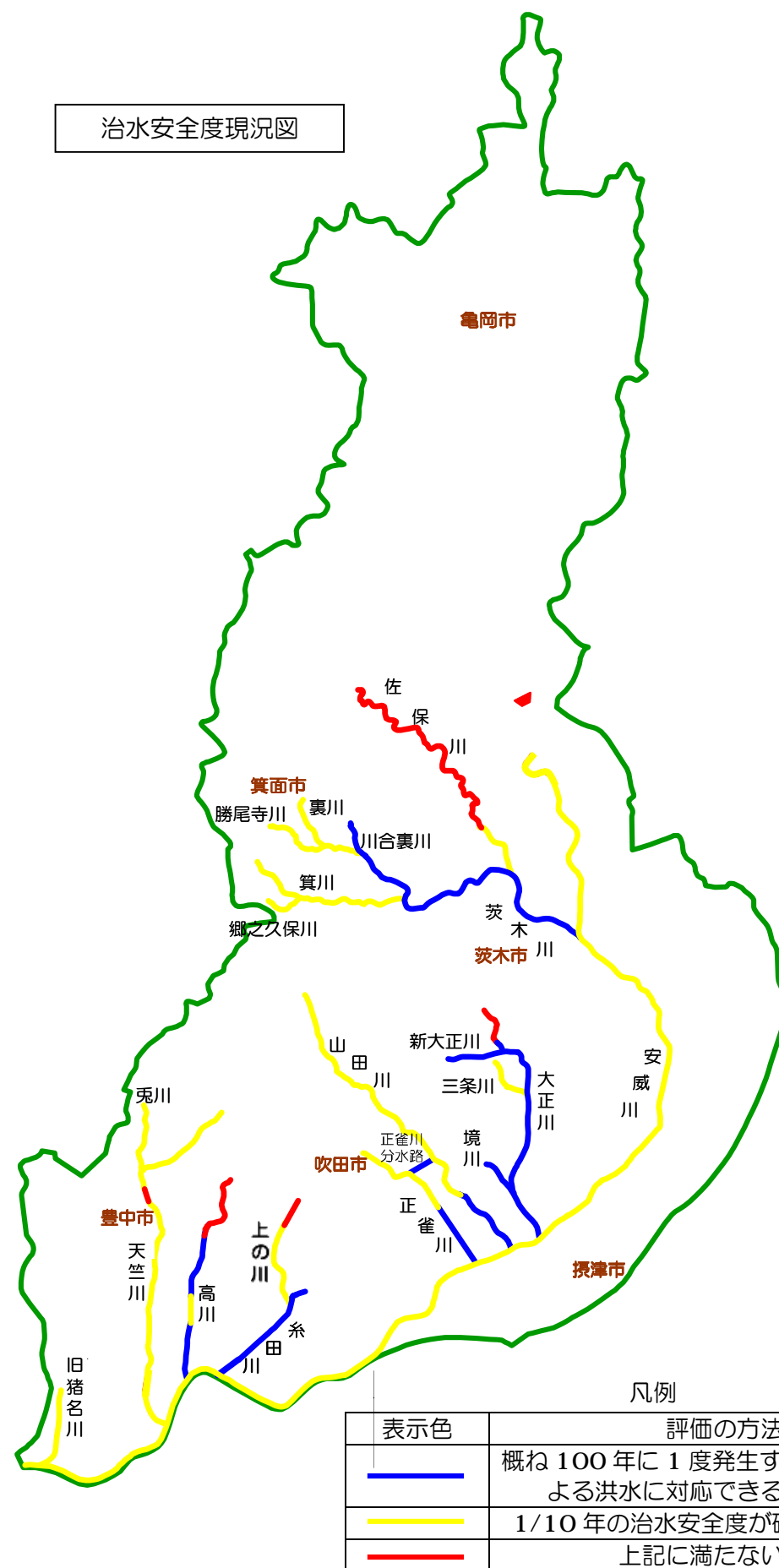
こうした現状から、ダムや調節池などの洪水調節施設の整備や、流域市などと連携によるため池などの既存貯留施設の有効活用などの流出抑制対策が必要となってきました。

また、流域内には桁下が計画高水位（H.W.L.）を下回る橋梁があり、洪水流を阻害し、破堤や越水などを引き起こすおそれがあるため、関係機関と協議を行い早期に対応する必要があります。

近年、集中豪雨が頻発してきており、概ね1/10年の治水安全度が確保できている河川においても、さらなるレベルアップを図る対策について、検討していく必要があります。

洪水が発生した場合には、速やかな避難が必要となることから、ハザードマップの作成時の支援を行うとともに、降雨量予測や河川の水位情報などの河川情報を提供するなどのソフト対策も必要です。

- 流量を検討する際に考慮する降雨量は、流域面積により日雨量や時間雨量を対象とします。神崎川ブロックでは、神崎川、安威川、茨木川、勝尾寺川、佐保川では、日雨量を対象とし、それ以外の河川では時間雨量を対象として検討しています。
- 本川筋となる神崎川・安威川の現況の治水安全度は概ね1/10年で、地域の重要性を考慮して、レベルアップが必要と考えています。
- 支川の治水安全度については、下流から高川下流部、糸田川、正雀川下流部、山田川下流部、正雀川分水路、大正川中下流部、境川、新大正川、茨木川、勝尾寺川中下流部、川合裏川においては、概ね100年に一度発生する規模の降雨による洪水に対応できる整備が完了しています。
- 安威川においても、上流の安威川ダム完成後には、治水安全度が概ね1/100年となる河川の整備が完了しています。
- 天竺川の一部や、高川中上流部、上の川上流部、大正川上流部、佐保川中上流部では、現況の治水安全度が1/10年に満たない箇所があるため、早期に河川整備による治水安全度の向上をはかる必要があります。
- その他河川では、現況の治水安全度は、概ね1/10年が確保されています。



\*治水安全度については要改修区間のみの表示としています



2. 河川利用の現状と課題

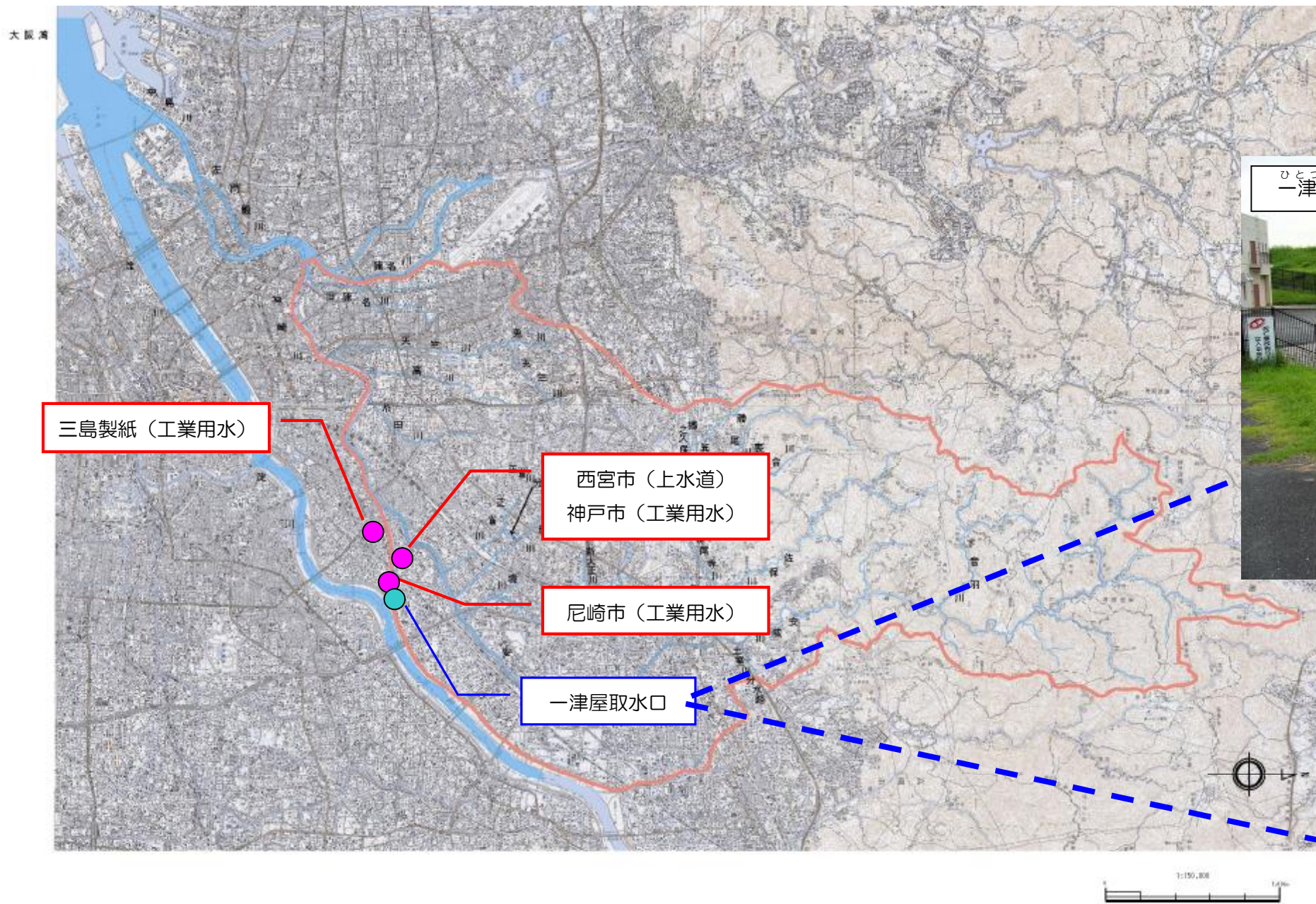
(1) 河川利用の現状

神崎川は淀川右岸・一津屋取水口から分派しています。この分派により平常時において河川浄化用として10m<sup>3</sup>/sの水が神崎川に供給されています。

河川の水利用においては、神崎川では工業用水および上水として利用されており、安威川流域等の上流域では、主に田畑などへのかんがい用水として利用されています。

神崎川ブロックの許可水利権一覧

河川	取水場所	取水者 届出者	種類	取水量 (m <sup>3</sup> /s)	備考
神崎川	北江口2丁目 333番の1地 先	西宮市	上水道	0.136	淀川に水利権 が存在 (国許可)
		神戸市	工業用水	1.323	
	北江口4丁目 350番地先	尼崎市	工業用水	1.762	
	東淀川区南江 口町1丁目59 番地先	三島製 紙	工業用水	0.045	
	合計			3.266	





(水利用)

○農業用水

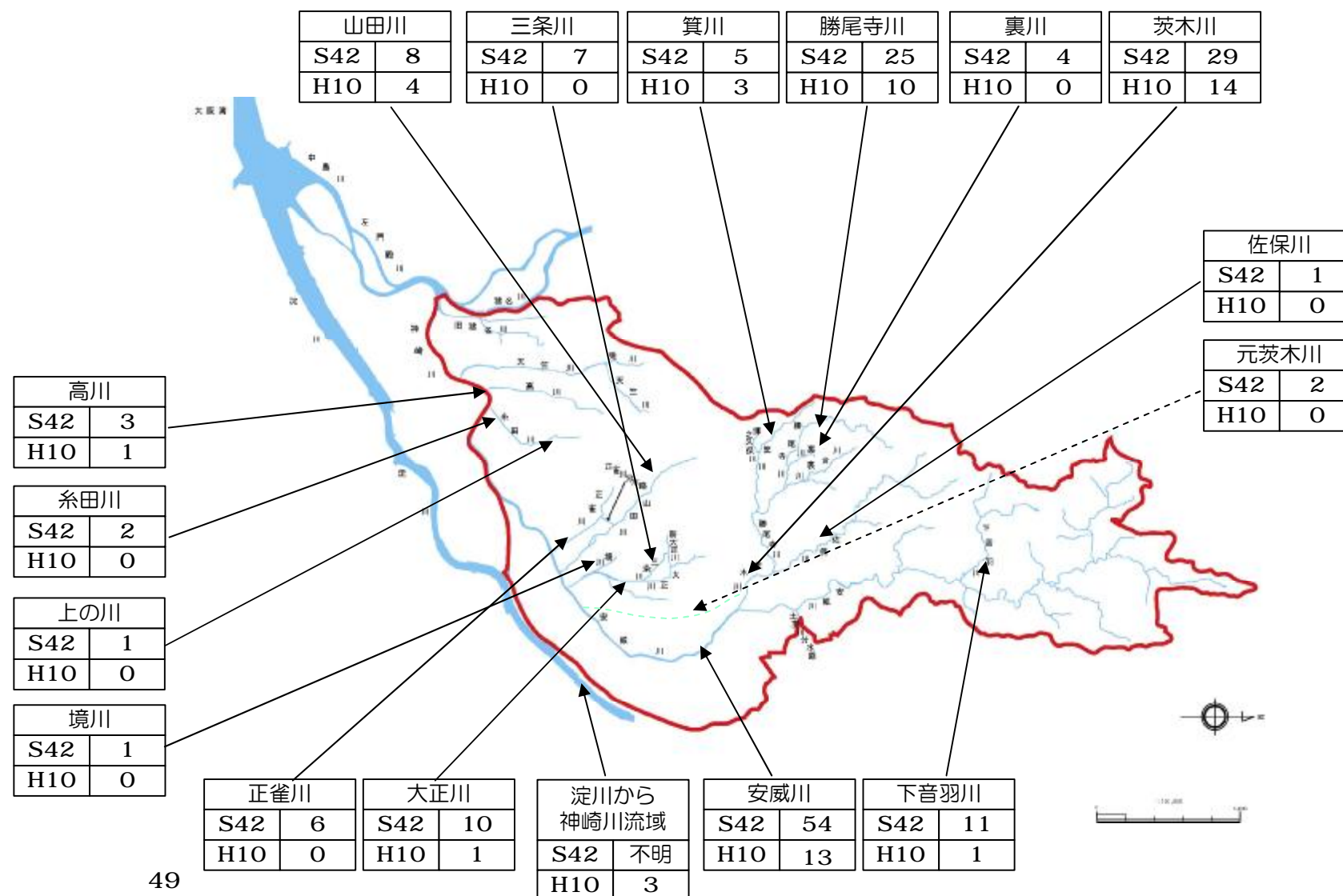
河川法施行に伴い神崎川ブロックの慣行水利権の届出調査が昭和42年に行われました。また平成10年に農業用水実態調査が行われました。昭和42年に169の届け出がありましたが、平成10年の調査では50の取水実績がありました。取水堰の統廃合や農地から宅地等への転用などにより現在の取水実績になったと考えられます。

届け出件数と取水実績

	昭和42年	平成10年
安威川	54	13
糸田川	2	0
上の川	1	0
高川	3	1
正雀川	6	0
大正川	10	1
山田川	8	4
三条川	7	0
境川	1	0
茨木川	29	14
元茨木川	2	0
佐保川	1	0
勝尾寺川	25	10
裏川	4	0
箕川	5	3
下音羽川	11	1
淀川から神崎川流域へ	不明	3
合計	169	50



山田川		三条川		箕川		勝尾寺川		裏川		茨木川	
S42	8	S42	7	S42	5	S42	25	S42	4	S42	29
H10	4	H10	0	H10	3	H10	10	H10	0	H10	14



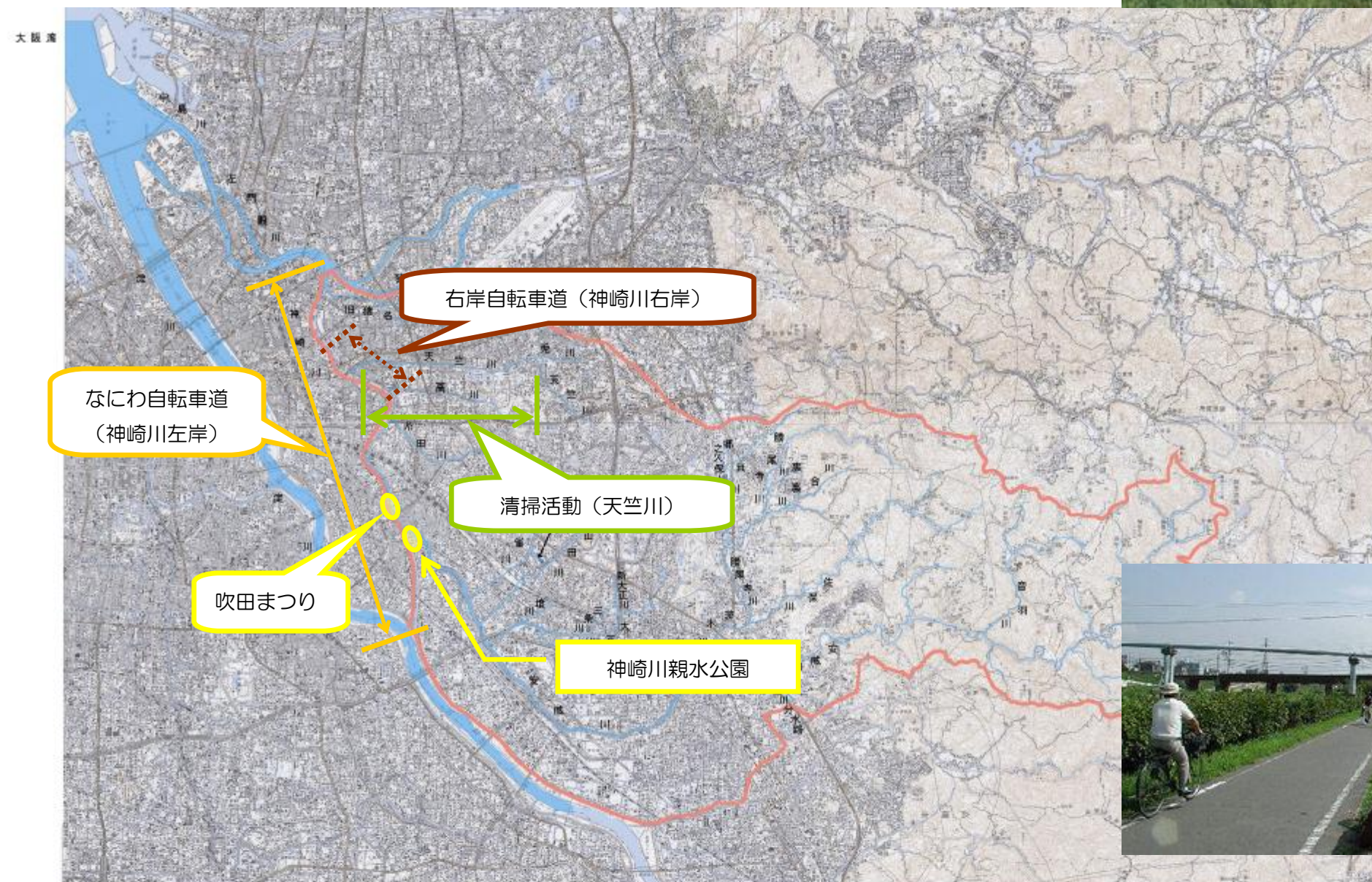


(空間利用)

河川の空間利用において、神崎川では「ネオ・リバープラン」(平成7年)に基づき高水敷には、なにわ自転車道等が整備されており、散歩やジョギングなどを楽しむ人々が見られます。また、吹田市の高浜橋から吹田橋付近では7月末頃に吹田まつりが行われています。全体的に多目的広場などの親水公園が数多くあり、都市域における貴重なオープンスペースとして豊かな市民生活を実現するため広く利用されています。



神崎川親水公園



吹田まつり



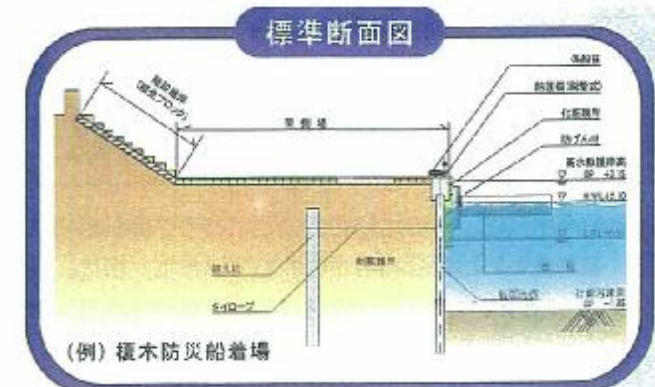
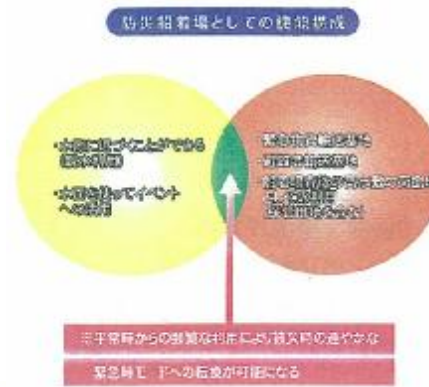
なにわ自転車道

出典：大阪府 HP より  
西大阪治水事務所 HP より



(空間利用)

また阪神・淡路大震災時に水上からの緊急物資の輸送が有効であったことが確認され、河川を利用して「震災時に必要な物資」を荷揚げしたり、「救命・救急活動」を行ったりする施設として防災船着場を整備しています。なお完成した船着場は平常時には水辺に親しむ広場として開放しています。



### 神崎川防災船着場マップ

◎西島防災船着場(H22 概成)

- 所在地 大阪市西淀川区西島2丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=330m
  - ・バース数 4バース(60m×3箇所、50m×1箇所)
- ・接岸可能船舶 貨物船700t級、50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道43号、阪神高速湾岸線



◎佃防災船着場 (H12 完成)

- 所在地 大阪市西淀川区佃2丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=58.5m
  - ・バース数 1バース(50m×1箇所)
- ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道2号
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄道 阪神電鉄干船駅
  - ・路線バス 神崎大橋バス停、佃バス停



◎三国防災船着場 (H15 完成)

- 所在地 大阪市淀川区新高5丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=572.0m
  - ・バース数 3バース(50m×3箇所)
- ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道176号
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄道 阪急電鉄神崎川駅、三国駅
  - ・路線バス 新三国橋バス停

◎榎木防災船着場 (H14 完成)

- 所在地 吹田市芳野町地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=228.8m
  - ・バース数 2バース(50m×2箇所)
- ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道423号・国道479号
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄道 市営地下鉄東三国駅、江坂駅
  - ・路線バス 榎木橋バス停



◎高浜防災船着場 (H10 完成)

- 所在地 吹田市内本町3丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=259.2m
  - ・バース数 2バース(50m×2箇所)
- ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 府道大阪高槻京都線
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄道 阪急電鉄上新庄駅、相川駅
  - ・路線バス 御旅町バス停、中の島公園前バス停





(空間利用)

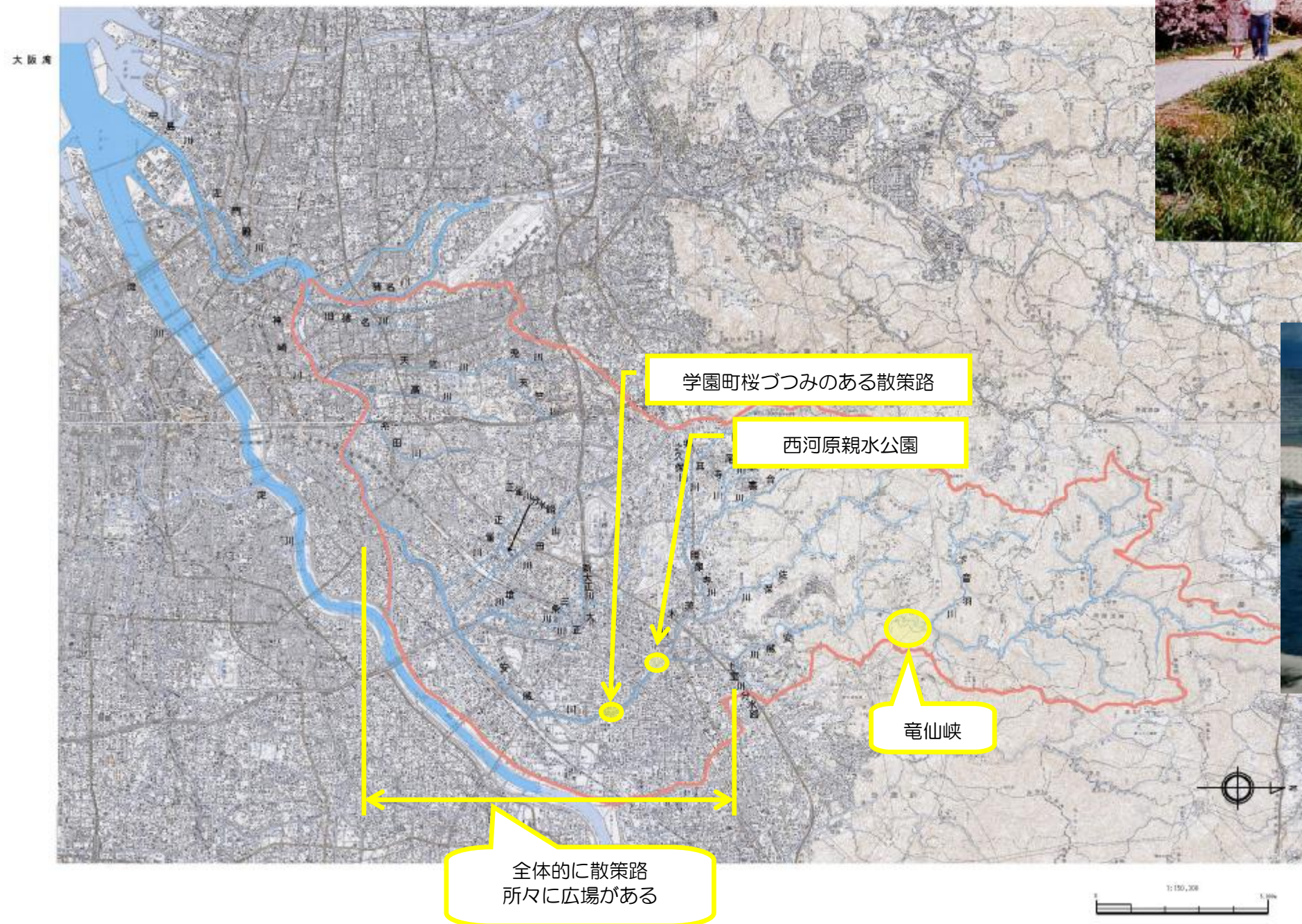
安威川中下流や大正川下流においても、「水と緑の回廊計画」(昭和61年)に基づく、高水敷整備や桜堤整備が行われており、散歩やジョギングなどを楽しむ人々が見られます。安威川上流や下音羽川の安威川合流点付近では、内水面漁業権が設定され、漁業組合により、アユ・マスが放流されて、遊漁が行われています。



学園町桜づつみのある散策路



西河原親水公園



出典：大阪府 HP より